

# シビル メール ニュース



これまでに配信されましたシビルメールニュースは、「日本大学理工学部土木工学科」のホームページ (<http://www.civil.cst.nihon-u.ac.jp>)より『OB向け情報』→『シビルメールニュース』でご覧いただけます。なお、シビルメールニュースをE-mailにて配信ご希望の方または郵送を希望される方は、卒業年次・氏名・勤務先・配信メールアドレスを明記の上、[mailnews@civil.cst.nihon-u.ac.jp](mailto:mailnews@civil.cst.nihon-u.ac.jp)で申し込み下さい。

発行責任者 土木工学科教授・教室主任 岸井隆幸

## 平成 20 年度 大学入試者選抜 大学入試センター試験が船橋校舎にて行われました

1月19日(土)、20日(日)の両日にわたり、平成20年度大学入試センター試験が船橋校舎にて開催されました。理工学部では、大学入試センター試験を利用した一般入学試験が3種類あり、それぞれの出願期間と合格発表は下表の通りです。C方式第1・2期では大学入試センター試験のみを、CA方式では大学入試センター試験と、本学で実施する個別学力検査(数学)の結果をもとに判定を行います。(入試情報の詳細はHPにて <http://www.cst.nihon-u.ac.jp/examination/index.html> を御覧下さい。)

なお、日本大学理工学部 一般入試A方式の出願締め切りは2月4日(月)、試験は2月11日(月)に、駿河台校舎をはじめ、船橋校舎・仙台・水戸・高崎・大宮・千葉・横浜・金沢・名古屋・大阪・広島・福岡で行われます。合格発表は2月16日(土)です。

試験	出願期間	試験日	合格発表
C方式第1期	～1月19日(土)	1月19日(土)・20日(日)	2月14日(木)
C方式第2期	～3月11日(火)	1月19日(土)・20日(日)	3月18日(火)
CA方式	～2月27日(水)	1月19日(土)・20日(日) ※本学試験日:3月5日	3月10日(月)
A方式	～2月4日(月)	2月11日(月)	2月16日(土)

## 平成 20 年度の理工学部・大学院理工学研究科の主な行事予定が決まりました。

行事	日程
ガイダンス期間(上級生・新入生)	4月2日(水)～5日(土)
新入生歓迎式	4月7日(月)
入学式	4月8日(火)
前期授業開始	4月9日(水)
附属高校生オープンカレッジ	6月8日(日)
駿河台入試フォーラム	7月20日(日)
前期試験	7月22日(火)～8月4日(月)
オープンキャンパス	8月2日(土)・3日(日)
夏季休暇	8月5日(火)～9月28日(日)
後期授業開始	9月30日(火)
学部祭	11月1日(土)～11月3日(月)
船橋キャンパスウォッチング	11月2日(日)
学術講演会	11月29日(土)
冬季休暇	12月26日(金)～1月9日(金)
後期試験	1月27日(火)～2月9日(月)
卒業式	3月25日(水)

## 防災教育および消防・防災訓練の実施

平成19年12月20日（木）駿河台校舎9号館にて防災教育および消防・防災訓練が実施されました。この防災訓練は、理工学部（駿河台校舎）の防災計画に基づき、防災教育及び消防・防災訓練を行い、防災体制の強化と教職員の防災意識の向上を図り、より安全な教育環境をつくることを目的としております。本訓練は理工学部の主催にて行われ、土木工学科からは教員7名、学生4名が参加し、消火訓練・AED講習に参加致しました。



AED 応急救護訓練



消火訓練に参加する重村・大沢両先生



理工学部職員による消火訓練

## 第2回土木工学科就職相談会の開催

第2回土木工学科就職相談会が2月13日（水）に開催されます。今回は74社に参加していただく予定です。就職相談会の詳細に関しては次号に掲載いたします。

## 博士論文公聴会

1月16日（水）に駿河台校舎1号館123会議室にて、博士（工学）の学位申請論文公聴会が開催されました。土木工学科から仲村成貴助手と大学院生熊田哲規氏（ヒロセ株式会社）が下記の通り発表を行いました。

氏名	所属	役職	発表タイトル
仲村成貴	日本大学理工学部土木工学科	助手	「多点観測された振動系の周波数応答関数推定法」
熊田哲規	ヒロセ株式会社(社会人大学院生)	技術開発部 主幹	「補強土壁の構造安定に関する研究」



発表を行う仲村成貴助手



岸井隆幸教授（左）、熊田哲規氏（右）

# 日大土木 Who's who

日大土木とともに歩んだ偉人を紹介するコーナーです。今回は関東大震災の復興事業の原案作成を行い、日本大学の発展のみならず日本の復興に尽力された**山田博愛先生**です。



No. 9

氏名：山田 博愛（やまだ ひろよし）

専門分野：都市計画

略歴：

1880年（明治13年） 新潟県高田市に生まれる  
1905年（明治38年） 東京帝国大学工科大学土木工学科卒業  
1918年（大正7年） 内務省官房都市計画課土木主任技師  
1922年（大正11年） 都市計画局第一技術課長  
1924年（大正13年） 復興局東京第一出張所長  
1931年（昭和6年） 日本大学教授（都市計画）  
1958年（昭和33年） 死去

山田博愛先生は新潟県高田市に山田直高の長男としてお生まれになりました。高田中学から第四高等学校を経て、明治 38 年東京帝国大学工科大学土木工学科を卒業、その後東京市に入り、そして埼玉県、滋賀県の土木課長を歴任されました。大正 7 年 5 月に内務省大臣官房に初めて都市計画課が設置されると、その土木主任技師に任命され、池田宏都市計画課長、笠原敏郎建築主任技師（のちの日大建築教授）とともに都市計画法および市街地建築物法の二大法案の立案・制定に中核となって活躍されました。大正 11 年に都市計画局第一技術課長になりましたが、翌年 9 月 1 日に関東大震災が起こると、9 月 7, 8 の両日に罹災地を調査の上、第一技術課、第二技術課の職員とともに帝都復興計画の原案を作成されました。そして、理想計画案を作成の上、現実の問題を考慮して、さらに代替案をいくつか作成されました。帝都復興院が設立されると、その計画局第一技術課長となり、計画案作成にあたり数多くの案を作成されました。しかし、帝都復興審議会、帝国議会の議を経る度に計画および事業予算は縮小されました。

大正 13 年 2 月に帝都復興院は廃止され、内務省復興局となり、先生は復興局東京第一出張所において、復興事業の現場の責任者として、麴町・芝・京橋方面の仕事を担当されました。しかし、復興事業の完成を見ないうちに大正 14 年 10 月退官されました。当時、私立大学ではほとんど法文系の学科のみであったので、技術者養成のため工学部門を設けるべきであるとの考えから、日本大学工学部長で初代土木科主任教授の茂庭忠次郎先生とともに、日本大学高等工業学校の設立に尽力され、大正 9 年から講師として教鞭をとられました。山田先生は、府県や市の顧問、都市計画審議委員として活躍されるとともに、昭和 6 年、日本大学工学部教授に就任され、都市計画の講座を担当されました。

山田博愛先生は、都市計画法を制定され、現在の東京中心部の骨格を形成した帝都復興計画の策定主管として、帝都復興事業を実施され、都市計画技術者の後輩を多数育てられた功績は偉大であります。



## 最近の教員活動状況



小林義和専任講師の研究に関する記事が、平成 19 年 12 月 5 日 (水) の日刊建設産業新聞に掲載されました。以下、小林義和専任講師の談；

「飛島建設との共同研究の結果開発された『3次元構造物健全性診断システム』が、この度日刊建設産業新聞ほか、建設関係の新聞7紙に取り上げられました。これは、従来地盤探査や医療分野で使われてきたトモグラフィ技術をコンクリート構造物の健全性診断に応用したものです。現在では、基本的な解析システムの構築が終了し、北海道札幌市近郊のダムの健全性診断に応用するとともに、診断結果の高精度化に向けて検討を進めております。この共同研究結果については、雑誌からの原稿執筆依頼や、新聞からのインタビューの依頼なども来ており、反響の大きさに驚いております。今後も、このような社会に注目される研究成果を挙げるべく、努力していきたいと考えております。」



日刊建設産業新聞 (07. 12. 5) より

学部3年生の清水寛君の記事が RM MODELS 150号 (12月) (HP; <http://www.rm-models.jp/>) に掲載されました。下記に清水君からコメントをいただきましたので掲載いたします。

「今回は特集企画として『D51の競作』というテーマでお声が掛り、製作途中の物がたまたまあったのでこの企画に参加しました。鉄道模型が去年はメディアで取り上げられる事も多く、また最近になってこの趣味の世界に戻って来られる方々も多いようです。

一つの作品に対して、実機の考察・推測、保存車両の観察、各種設計図との格闘など、多くの過程を克服して完成させ、初めて動いた時の感動は作った人にしか分からないものですが、本当に嬉しいものです。モノを作ることは本当に素晴らしい事だと思います。さあ、皆さんもこんな趣味、はじめてみませんか？」



掲載された模型 (D51 328)